

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

よこはま地域福祉研究センター

② 施設・事業所情報

名称：スターチャイルド《白楽ナーサリー》	種別：認可保育所	
代表者氏名：新場晴美	定員（利用人数）： 63名	
所在地：横浜市神奈川区六角橋2-16-9		
TEL：045-488-5021	ホームページ：http://www.starchild.jp/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日： 2018年04月01日		
経営法人・設置主体（法人名等）：ヒューマンスターチャイルド(株)		
職員数	常勤職員： 13名 非常勤職員 7名	
専門職員	（専門職の名称） 名	
	施設長：1名	保育士：14名
	栄養士：1名	調理員： 2名
	事務員：1名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	保育室：6	園庭、調理室、調乳室、沐浴室、乳児トイレ、幼児トイレ、多機能トイレ、事務室兼医務室、更衣室、ラウンジなど

③理念・基本方針

【運営理念】わたしたちは、かかわるすべての人が子育ての楽しさ、喜び、感動を共有できる保育施設を運営します。

【保育理念】わたしたちは、子どもの無限の可能性を信じ、意欲を引き出し、伸ばす保育を実践します。

【保育目標・方針】

(1) 良く考え、心身ともにたくましい子（自立と挑戦を支援します）

(2) 個性豊かな子（個性を尊重し長所を伸ばします）

(3) やさしさと思いやりのある子（社会性＝人と関わる力を身につけます）

④施設・事業所の特徴的な取組

- ・散歩では岸根公園を始め多数の公園や神社などに出かけ戸外で遊び、自然に触れています。買い物で訪れる六角橋商店街等では地域の人々と挨拶を交わしています。
- ・子どもが好きな遊びを見つけ、友達と一緒に遊べる楽しさを感じられるよう、環境構成をしています。
- ・英語教室は、外国人講師と他国の言葉や文化に触れ、体操教室は身体能力を高める活動を行っています。
- ・神奈川大学人間科学専門ゼミとの共同研究として「大学生と子どもが遊び、共に育つ『共育』」に取り組んでいます。学生指導のもと、子どもと一緒に運動遊びを行い、睡眠・活動などの調査を実施し、今後は、子どもたちの発達を促す環境や保育内容に活かしていく予定です。学生は、保育参観、給食参加など年間15回にわたって園を訪れ活

動をしています。共同研究ミーティングでは施設長、法人、大学教授などが参加し保育参観の振り返りやアンケート集計の報告、今後の活動等が話し合われています。

- 法人のプライバシーマーク取得に伴い「プライバシーマークガイドライン」を学び、職員全員が「教育確認テスト」を行い、個人情報保護法を認識するよう取り組んでいます。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2020年5月7日（契約日） ～ 2020年11月20日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	回（ 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

- ◆保育の質の向上への取り組み 施設長は、日々頻りに現場に足を運び、保育室の様子や保育日誌で保育の質の現状を確認し、指導計画との齟齬、子どもの接し方などについて確認しています。評価・分析して気になった点は、フロアリーダーと連携して話し合い、昼礼や会議で職員に周知しています。また、園の年間指導計画や保育日誌、研修報告書等は、PDCA を記載する様式となっています。日常の業務の中で職員が P（計画）D（実践）C（評価）A（見直し）を用いて身につけられるよう、常に保育の質の向上に取り組んでいます。
- ◆職員の人材育成 園は、職員の希望やスキルに合わせた施設長のアドバイス等で社内や社外の各研修の受講を決め、人材育成計画に基づいた法人主催の階層別研修、スキルアップ研修、認定研修を実施しています。園では、月1回園内研修を実施し、「居心地の良い環境作り」「時間を意識した業務」等のテーマで職員が改善策を検討して、職員のスキルアップや保育の質の向上に結び付けています。更に、研修で学んだ事を職員に周知する「伝達研修」は、学んだ職員が教える事で学び直す機会として力を入れています。今年度は保育の実践に有効なオンライン研修を多数実施して職員の人材育成に努めています。
- ◆地域交流活動への取り組み 園は地域福祉のニーズに応えるべく、開所前の設計の段階から、外階段で直接入ることができるラウンジ（交流スペース）を設け、ゆったりくつろげるラウンジで「子ども食堂」を開催するなどの地域交流に取り組んでいます。地域子育て支援では、育児講座、交流保育、園庭開放、一時保育の受け入れをしています。自治会に加入するなど、地域に根ざした保育運営を心掛けています。子どもたちは地域の人々と一緒に夏祭りやキャンドルナイト、老人会等の行事に参加するなど、地域で様々な体験をしています。園は、中長期計画に「地域交流推進」を掲げて活動を活性化させる準備を整えてきましたが、現在は、コロナ禍で停滞しています。開設から 3 年目を迎え、地域への新たな取り組みの構築と、これまでの活動の継続が期待されます。

◇改善を求められる点

園では、会議や研修の前に理念などの唱和をし、各種マニュアルなどの読み合わせを行い、職員に周知を図っています。また、施設長は、昼礼や会議で様々な情報を職員と共有するよう伝えたり、非常勤職員など会議に出席していない職員には、ミーティングノートや伝達ノートで周知を図ったりしていますが、職員アンケートでは保育内容に関する項目では充分周知されているのに比べて、「経営状況の把握」「事業計画の策定」などの項目は『分からない』と回答した職員が散見されました。職員も園の一員として理解していくことが求められ、事業計画の策定にあたり、職員からの意見の集約や参画、反映の仕組みづくりが望まれます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

開園三年目を迎え、初めての第三者評価です。
評価機関への提出書類をまとめる中、園運営を改めて深く考える機会となりました。
評価機関とのヒアリングでは、保育園としての役目や保育への想いを改めて整理して考えることができ、また職員アンケートでは、園運営についてもっと職員と共通理解のもと進めていく必要があることを痛感しました。
保護者アンケートでは、評価機関より「回答率が良いです」とお話を頂き、保護者との繋がりを強く感じました。忙しい日々の中、多くの方に回答のご協力を頂き感謝の気持ちでいっぱいです。結果を確認したところ課題が明確になりましたが、開園してから職員みんな「居心地の良い環境づくり」を目指してきたことが伝わっていた喜びと、あわせて日々の保育が一方向的なものになっている反省が見つかりました。
第三者評価を通して、日々の園のことをもっと知ってもらいたい！保護者とたくさん話をする事で同じ方向を向いて保育のサポートがしたい！という想いを強く感じています。「自園を見直す」良い機会となりました。ありがとうございました。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり